

調査等事項報告（団体名：総務文教常任委員会）

視察先	岩手県紫波町（紫波町役場）
視察日時	令和 7 年 7 月 23 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分
視察項目	地域公共交通について
視察者	矢萩浩次、柴崎亮太、大山正弘、高橋菜穂子 田中正信、高橋卯任、森 直也、松倉慶子
対応者	企画総務部企画課長 森川高博 企画総務部企画課総合政策係長 金子裕之 企画総務部企画課総合政策係 武藤宇将(たかゆき)
報告者	高橋卯任
視察の内容	1. 視察の目的 人口減少・少子高齢化の進行や市民の多数が仕事のため自家用車を所有しているといった実情がある村山市では、近年、既存路線バスの運行停止が拡大してきており、運行停止された路線に市営バスの運行やデマンドタクシーを配備するなどして対応している。但し、事業の利便性や持続可能性等に課題が残る。私たちが持つ課題を念頭に置きながら先進地を視察し、本委員会の政策提言に活かしていく。 2. 紫波町の概要 岩手県のほぼ中央、盛岡市と花巻市の中間に位置している。町内には J R 3 駅があり、町から北に 23 k m 地点に盛岡駅、南に 18 k m 地点に花巻空港、西に 5 k m 地点に東北自動車道紫波 I C があり公共交通に恵まれた場所である。また、公民連携(P P P) の手法を全国に先駆け導入し、公民連携によるまちづくりが全国的に注目を集めている。 人口 32,511 人、世帯数 13,150 世帯 3. 研修内容 ・ A I 配車によるデマンド型乗合バス「しわまる号」について 1) 導入の背景 平成 1 5 年からコミュニティバス「すこやか号」を運行していたが、運行事業者の運転手不足によりコミュニティバスの廃止を余儀なくされ(令和 2 年 3 月)、町民の生活の足の確保が緊急の課題になった。

2)導入までの取り組み

令和2年4月以降の課題解決(町民の生活の足の確保)にむけて、

- ・町内交通事業者へ聞き取り調査
- ・デマンド型乗合バス実証実験公募型プロポーザル方式を実施
- ・住民説明会(令和元年7月から9月)
- ・デマンド型乗合バスの実証実験(令和元年10月)
- ・周知用チラシ作成(全戸配布、町内各施設など)
- ・地元商店会や商業施設のセールチラシに掲載依頼
- ・医療機関・商業施設等に利用者の予約時のサポート協力依頼などに取り組まれた。

3)デマンド型乗合バスの内容

- ・運行区域 紫波町内全域
- ・運行車両 ワゴンタイプ車両(最大乗車人数8名)
平日4台、土曜3台、日祝2台運行
- ・乗車場所 停留所設定はなく、自由に乗降場所の設定可
ドアツードア方式、フルデマンド方式
- ・利用料金 1人1回(片道)500円(乗合時300円)
※小学生1人1回200円(乗合時100円)
未就学時は無料
- ・利用方法 電話またはスマートフォン(Webサイト)で予約

4)AI配車システムの効果

- ・スマホ予約の際のオペレータの労力削減
スマホ予約→AIが自動で予約処理
- ・利用者に最短距離で移動を提供可能
AIが最短ルートを計算→乗客の乗車時間減、負担減
- ・タクシー業界の運転手不足への一助
AIが最適ルートをナビゲート、土地勘がなくても大丈夫

4. 所感

地域公共交通の再構築は、本市だけでなく多くの自治体が急務の課題として取り組まれている。その取り組みには、自動運転やMaaSなどデジタル技術を実装するものが入り入れられている。今回視察した紫波町のAI配車システムを活用したデマンド型乗合バスは、地域公共交通再構築に大きく寄与するものと実感した。AI配車システムの導入による効果は、前項に

	記述したが、他にもドアツードア送迎を可能とし外出の機会をより多く町民に提供できていること、小学生が放課後の習い事への移動手段として活用していること、ベビーカーを積んで乗車する子育て世代の利用など、以前のコミュニティバスではカバーできなかった潜在ニーズの掘り起こしができたとのことだった。また町内の移動に公共交通をあまり使って来なかった層が公共交通を使うきっかけにもなったそう。また従来の公共交通は行政・交通事業者が担うのが当たり前と考えられてきたが、これからは公共交通を育て、支えるという住民意識の醸成が必要ということだった。この考え方は、地域公共交通の将来性や持続性を確立させることにつながる重要なスタンスと感じた。そうした実績を聞くことができ、非常に有意義な視察研修となった。これらの情報を参考に、村山市の事情を考慮しながら、市民ニーズに沿った公共交通再構築を考えていきたい。
--	---

調査等事項報告（団体名：総務文教常任委員会）

視 察 先	岩手県紫波町（株式会社オガール）
視 察 日 時	2025年7月24日
視 察 項 目	オガールプロジェクトについて
視 察 者	総務文教常任委員
報 告 者	柴崎 亮太
内 容	オガールプロジェクトとは紫波町にある紫波中央駅前の未利用町有地 10.7ha を活用した公民連携によるまちづくり構想である。 オガール紫波株式会社（第三セクター）がプロジェクトの中心を担い、民間主導による構想や資金調達を実施している。 オガールプラザ（官民複合施設）をはじめとし、 1. オガールプラザ（官民複合施設） 2. オガールベース 3. オガールセンター 4. オガールタウン 5. エネルギーステーション の5つからなる持続可能なまちづくりのモデルケースである。また同エリア内に紫波町役場も併設され行政、子育て、文化スポーツ、教育、医療、飲食店と生活の基盤と、あらゆる分野が盛り込まれている。 特筆すべき事項としてオガール紫波㈱の財務の収益の95%が産直の収益によって運営されるなど、農産物が経済循環の主役となりうる証明がなされている好事例と捉える。 紫波町は農業が基幹産業と言うこともあり、同じく村山市も農業が基幹産業であることから大いに可能性を感じるものである。 未利用の公有地を活用した民間主導のコンパクトなまちづくりや企画から運営方法など、少子高齢化や人口減少により岐路に立つ本市において、まちづくりに対する考え方に対し、取り入れるべき点が多く見受けられた。

調査等事項報告書（団体名：総務文教常任委員会）

視 察 先	岩手県岩手郡岩手町
視 察 日 時	令和7年7月24日(木)14:00～16:00
視 察 項 目	「道の駅 石神の丘」について
視 察 者	矢萩浩次、柴崎亮太、高橋菜穂子、大山正弘、 田中正信、高橋卯任、森直也、松倉慶子
報 告 者	松倉慶子
内 容	1, 概要 ○2002年（平成14年）7月開業 岩手町のシンボルとも言うべき観光地 年間40万人の利用者が訪れる岩手県北の拠点 ○休息、情報発信機能、地域の活性化に加え、 防災機能を目的とする施設が付帯している。 2,運営 株式会社岩手ふるさと振興公社 町、農協、商工会出資の第三セクター 3, 業務内容 ○道の駅受託管理 （産直、レストラン、情報施設、農産加工組合） ○石神の丘美術館、岩手広域交流セクター受託管理 ○従業員数55名 4, 道の駅を彩る【産直石神の丘】 ○並んでいる農産物はすべて地元岩手町産 ○野菜の品ぞろえは岩手県内でも随一 ○岩手町のお店のお土産品も充実 ○岩手町産直組合員77名 町内販売業者で構成 ○野菜売上 年間2億1千万円 お土産1億3千万円 ○農産物イベント年10回（家庭菜園ふれあい市、開業祭、 お盆早朝営業、秋の感謝祭、道の駅連帯出店、冬のイルミネーション等） ○地方発送も積極的 個人、産直施設、関東圏飲食店、八百屋、 東京・盛岡アンテナショップ、ふるさと納税返礼品など 総扱い高 年間約1,600万円 〔課題〕 ○生産者、販売業者の高齢化を迎え、平均年齢は70歳を超える、

将来的な方策、後継者の確保が必要

○集客イベント時の駐車場不足

5, 地産地消レストランと十割手打ちそば

○レストラン石神の丘

- ・岩手町産食材を使ったメニューを提供
- ・岩手町産食材を使ったメニューを提供野菜は石神の丘産直施設から仕入
- ・コース料理、団体受け入れ、法事膳など

○十割手打ちそば茶屋っこ

- ・岩手町農産加工組合が運営
- ・地元そば粉を使った十割そば
- ・串餅や総菜などを産直で販売

6, 石神の丘美術館

○草花と彫刻が楽しめる野外エリア「花とアートの森」

- ・1993年に岩手県では初となる野外彫刻美術館として開館
- ・2002年道の駅石神の丘へ隣接
- ・年間二万人の来館者
- ・特色ある作家の企画展・イベント
- ・2024年クアオルト健康ウォーキングアワード受賞

7, 岩手町の特産品を使用したオリジナル商品を展開

○特産品を使用した商品で、岩手町をPR

○ターゲットを明確に商品力をUP

- ・岩手町ブルーベリーカレー
- ・岩手町ブルーベリーワイン「ルルとリリ」
- ・キャベツ焼酎
- ・ごぼうまるごと「丘のマドレーヌ」
- ・石神長いもそば

8, 道の駅石神の丘の役割と地域振興

○岩手県北地区への交流人口の創出

○道の駅石神の丘が岩手町の交流拠点

○地方創生・観光を加速する拠点

調査等事項報告（団体名：総務文教常任委員会）

視 察 先	岩手県矢巾町
対 応 者	矢巾町：企画財政課 まちづくり推進室
視察日時	令和 7年 7月25日(金) 午前10時30分 ～ 12時00分
視察項目	矢巾町の地域公共交通について
視 察 者	矢萩浩次、柴崎亮太、高橋菜穂子、大山正弘、田中正信、高橋卯任 森直也、松倉慶子
報 告 者	矢萩浩次
視察の内容	「ちゃぶ台返し世界大会」を開催しているまち：矢巾町 盛岡市に隣接した豊かな田園都市であり、北東北の物流拠点、岩手医科大学や県立産業技術短期大学校・県立南昌みらい高等学校が立地する学園都市、岩手医科大学附属病院他医療・福祉施設が充実した医療・健康・福祉のまちである矢巾町が地域公共交通を再編し空白地域を解消させた公共交通施策について、更には、今後策定が予定されている「盛岡都市圏における広域的な地域公共交通計画」の期待される効果や町の施策との連携について視察 1. 矢巾町地域公共交通の再編について ○現状と課題 町の循環コミュニティバスは「空気バス」と揶揄される状況に、医大付属病院開院後、通院・通勤者の移動に対応が出来ない ○「矢巾町地域公共交通会議」設置 ・構成員：県、運輸支局、交通事業者、県バス協会・タクシー協会、地区タクシー協会、県交通労働組合、住民利用代表者、医大付属病院、道路管理者、警察 ・「望ましい公共交通のすがた」を明らかに ・移動ニーズに対応し効率性の高い公共交通のネットワーク再構築に着手 ○地域公共交通網形成計画を策定 ・課題：バス停の位置、運行本数、他交通への乗り継ぎ等 ・解決策として公共交通空白地区の解消：コミュニティバスとデマンド型交通の活用 ・町民誰もが利用できる環境の整備 ・住民協働の取組み：町民の協力と利用促進：公共交通ネットワークの見直し

○予約型乗合バス「のりあい号」運行

- ・以前のコミュニティバスを再構築しデマンド交通として運行
- ・乗降場所の設定により不便さを解消；乗降場所 303 カ所
- ・利用者の予約に応じ乗合により決められた乗降場所での運行
- ・平日のみ、1 時間おき、一日 10 本の運行
- ・運賃：500 円、小学生以下 300 円、就学前児童は無料
障がい者手帳所有者・要介護支援者・運転免許証返納者 400 円
- ・キャッシュレス決済対応：QR コード決済
- ・使い方動画：YouTube 製作
- ・利用者満足度 91%

○市街地循環バス「やはばす」運行

- ・医大付属病院の開院に合せ運行開始
- ・矢巾駅から病院までの交通手段
- ・駅周辺市街地の人口集中地域がターゲット
- ・買い物、通院の他役場など公共施設、銀行や郵便局などを循環し利便性の向上を図る
- ・他交通への乗継時間を考慮しダイヤを改正
- ・平日のみ、医大循環 11 本、駅周辺 6 本を運行
- ・区間問わず一定運賃：中学生以上 150 円、小学生 80 円、未就学児は無料
- ・利便性向上策
乗降し易いバス仕様、キャッシュレス決済導入、運行状況が確認できるバスロケーションシステムの導入、GTFS・RT 公開、検索サイトへ情報提供拡大、親しみやすいラッピングデザイン
電子ペーパーディスプレイ時刻表の実証実験
- ・利用者満足度 56%

○課題と解決策

- ・持続可能な公共交通
利用者の減少、運転手不足、事業費拡大に町民が反対
一定の予算の中で、最大限効率的に生活交通を確保
- ・公共交通の利用促進：地域で守る意識の醸成
- ・公民のバランス：ウィンウィンの関係の中で町営運行し民間利用者の増加

●町民・事業者・町が一体となり、あるべき町の公共交通を考えていく

事前質問への回答

1. 公共交通空白地区の解消に関して

- ・どこまでのサービスで「解消」と考えているか(公共交通空白地区の解消の要件)
(回答)

当町では、公共交通空白地域の要件を定めておりませんが、民間タクシーが町内全域を営業区域として15～20分ほどで移動することができ、町が町内全域においてデマンド交通を運行することで、地域公共交通網を整備出来ていると考えています。また、地域コミュニティからの要望等を受け、乗降場所の追加ができる仕組みとしております。

- ・公共交通空白地区を解消するための課題や苦勞した点は何か

(回答)

旧コミュニティバス「さわやか号」を廃止する際、利用者の方にご理解いただくことや乗車人数調査の実施、デマンド交通を開始する際、はじめての取り組みであり仕組みをご理解いただくことに苦慮いたしました。

- ・利用している町民の反応について

(回答)

説明資料のとおり、当初は色々なご意見等をいただきましたが、改良を重ね、令和3年度実施の利用者アンケートにおいて、市街地循環バス利用者の満足度は56%、予約型乗合バスの満足度91%となっており、概ね良い評価をいただいていると思います。アンケート調査後に、バスロケーションシステムやキャッシュレス決済、乗降場所追加などを実施しており、利用満足度向上に努めております。

2. 地域公共交通計画策定後に出てきた課題や取り組んでいる解決策について

(回答)

平成30年1月に地域公共交通網形成計画を策定し、平成31年3月からデマンド交通、平成31年9月から市街地循環バスの運行を開始しました。説明資料のとおり、色々なご意見等をいただきながら、つどダイヤ改正やキャッシュレス決済の導入など利便性向上に努めております。課題としては、想定していた以上に交通事業者の縮退が著しく、路線廃止や減便、運転手不足が続いており、支援金や利用促進の広報、PR動画製作など事業者支援に取り組んでおります。

2. 盛岡都市圏地域公共交通計画について

「盛岡都市圏」盛岡市、滝沢市、矢巾町で構成

○盛岡都市圏の移動・公共交通の特徴

- ・同一生活圏として三市町を跨いだ移動
- ・盛岡都市圏内を連絡する公共交通路線運行多数
- ・盛岡都市圏外との連絡広域路線も都市圏の公共交通ネットワークを構築

○「盛岡都市圏地域公共交通計画」策定：令和7年9月予定

- ・持続可能で効果的な地域公共交通のあり方を示す
- ・地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにする

○盛岡都市圏が目指す将来ネットワークの形成

鉄道・路線バス・タクシーなど既存サービスの組合せに、不便地域には地域特性に合った多様な交通手段により将来ネットワークを形成

事前質問への回答

3. 今後策定される「盛岡都市圏における広域的な地域公共交通計画」について

- ・計画策定の概要と経緯について

(回答)

令和2年度の地域交通法改正により、計画区域は地域住民の日常生活に関して形成される交通圏を基本とすることとなりました。本町においても、町北部から盛岡市南部への移動需要が認められており、市町ごとの計画ではこのような市町域を跨いだ移動に十分に対応できないことから、盛岡市を中心とした生活圏となっている市町で広域計画を策定することとしました。

- ・策定により期待される効果について

(回答)

盛岡都市圏は、同一生活圏として市町域を跨いだ移動が多く、都市圏内を連絡する路線が多数運行されている地域です。この交通ネットワークを将来にわたって維持していくためには、各市町や交通事業者、住民が一体となって取り組むことが必要不可欠であり、本計画によりその実施体制を確保します。

- ・町の政策との連携について

(回答)

矢巾町が実施しているデマンド交通について、現在は町内の乗降場所間のみ移動可能ですが、盛岡市南部へ運行区域の拡大を実施する予定です。また、公共交通利用促進の施策として、盛岡市及び滝沢市と連携した利用促進イベントの実施や公共交通マップの作成など、3市町で連携する施策を実施する予定です。

以上